

REVANT

144/430MHz帯高利得2バンド
ガラスマウントモービルアンテナ レピーター対応型

TG509/TG506

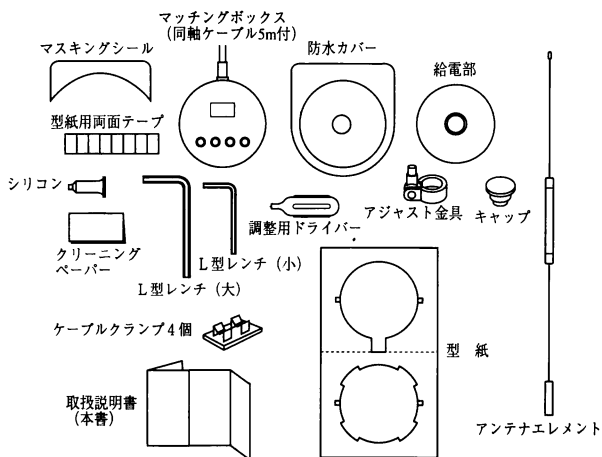
特許出願済 意匠登録出願済

取扱説明書

このたびは、TGシリーズ（レヴァント）をお買い上げいただきましてありがとうございます。このアンテナは、ガラスに貼り付けて使用する無線用アンテナです。取り付け作業はこの取扱説明書をよく読んで確実に行ってください。お読みになったあとは、大切に保存してください。

●構成部品

このアンテナは次の部品で構成されています。開封時にご確認ください。



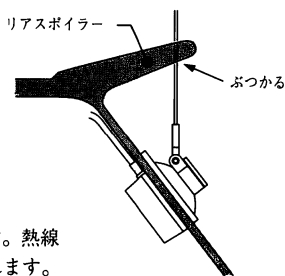
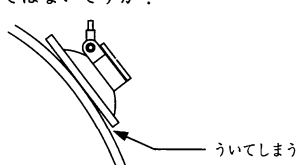
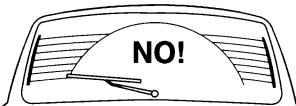
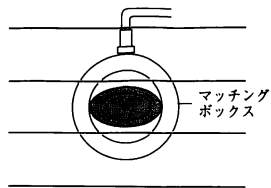
I 取り付け前の準備

- ・エレメントが車の屋根などの金属部分に近づきすぎるとSWR調整ができないことがあります。この場合は、エレメントを金属部分から遠ざけるように傾けるか取付場所の変更を行ってください。
- ・湿気が多いとき（霧や雨などのとき）は作業を行わないでください。
- ・ステッカーなどの貼ってある場所への取り付けは接着強度が落ちるためできません。
- ・リアガラスにラジオ用のアンテナが入っている車種があります。ラジオ用のアンテナに近い位置に取り付けると、送信した時ラジオに雑音が入る場合があります。クリーニングペーパー、シリコンの取扱について
 - ・幼児の手の届くところに置かないでください。
 - ・万一飲み込んだ場合は、水を飲ませるか吐かせるなどの処置をし、医師にご相談ください。
 - ・目に入れた場合は、水洗いし、医師にご相談ください。
 - ・火気の近くに置かないでください。



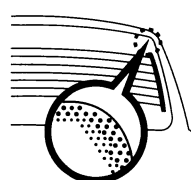
(1) 取り付け場所の確認をします

- ①車内からマッチングボックスをあて、次の点に注意して取り付け場所の確認を行ってください。
 - ・視界を妨げるような場所ではないですか？
 - ・楕円の容量板が熱線またはガラスに内蔵されたラジオ用アンテナの部分にかかっていないですか？ただし、熱線と熱線の間に付けることは可能です。
 - ・ケーブルの引き回しや調整作業などに支障がないですか？
 - ・ガラス面が極端にカーブした場所ではないですか？
- ②次に車外からもアンテナをあててください。車内から確認した取り付け位置で問題がないか、次の点とあわせて確認してください。
 - ・リアワイパーのある車種では、リアワイパーが正常に動作できますか？
 - ・アンテナエレメントを垂直に立てたときにリアスポイラーなど障害物はないですか？
 - ・ガラス面が極端にカーブした場所ではないですか？



③同軸ケーブルの引き出し方向

- 熱線のある場合…上または下になります。熱線のない場合…どの方向でも取り付けられます。
- ・*車種によってはガラス面に黒い斑点状の塗装部があります。この塗装部分は、電気的な影響がないので取り付け可能です。
 - ・*ガラス内側に貼り付けるタイプの着色フィルムは電気的な問題はありませんが、接着強度を保つためにははがしてお使いください。
 - ・*フロントガラス、運転者側サイドガラスにアンテナを取り付けしないでください。道路運送車両法により、フロントガラスにアンテナを貼り付けることは禁止されています。



(2) 取り付け面の汚れを拭き取ります

- 取り付けようとするガラス面をあらかじめ清掃したあと、付属のクリーニングペーパーで、ワックス、油分などをよく拭き取り乾燥させます。液体ワイパーなど、ガラス面に強力に付着する薬品が塗ってある場合は、あらかじめコンパウンドなどで完全に取ってからアンテナを取り付ける位置の車外、車内ガラス面両面をクリーニングペーパーで拭き取ってください。



II 取り付け方法

- ・両面接着テープは規定の接着強度が得られるまでに、24時間程度かかります。取り付け後すぐに走行する場合は、エレメントを取りはずしてください。
- ・一度貼り付けてはがした両面テープは、接着強度が落ちます。事故につながりますので絶対に使用しないでください。もう一度取り付けるときは、必ず当社のリペアキットをお使いください。
- ・一度貼り付けるとやり直しできません。取り付け前の確認を十分に行ってください。

(1) 車内側にマッチングボックスを取り付けます

①車内用の型紙を貼り付けます。

型紙は車内用と車外用があり、貼り付ける際の位置合わせに使います。ミシン目で切り離し、付属の型紙用両面テープを使いガラスへ仮付けします。熱線のある場所に貼り付ける場合は、型紙の合わせライン（切り込み）が図のように熱線と熱線の中心にくるように貼り付けます。

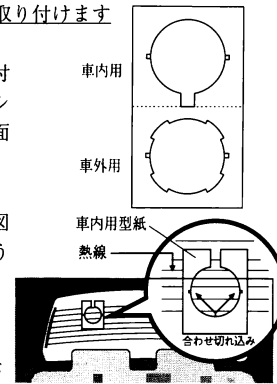
車内用

車外用

車内用型紙

熱線

合わせ切れ込み

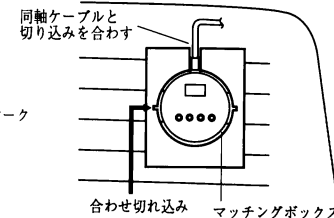
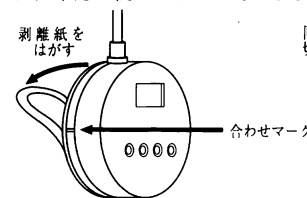


②ガラス面を暖めます

接着するときガラス表面が冷えている（摂氏20℃以下）場合は、接着強度が得られませんので、5分間程度リアウインドデフォグガースイッチ、および車内ヒーターを入れて暖めてから貼り付け作業を行ってください。

③マッチングボックスを貼り付けます

マッチングボックス裏面の剥離紙をはがします。次にマッチングボックスの合わせマークと、型紙の合わせ切れ込みを合わせてガラス面に固定し、外周を押すように加圧してください。型紙は車外の貼り付けのときも位置確認に使いますのでそのままにしておいてください。



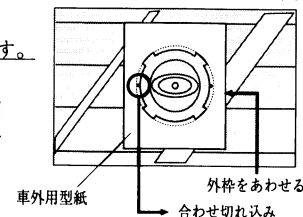
④同軸ケーブルを固定します

同軸ケーブルは、視界を妨げないように取り付けてください。付属のケーブルクランプを車内に貼り付け、同軸ケーブルをはめ込んで固定します。

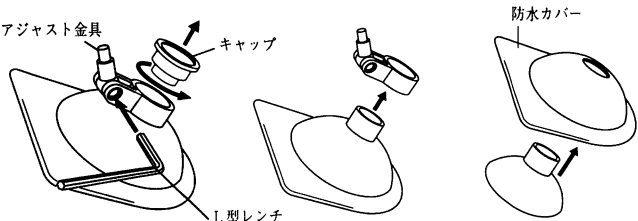
(2) 車外に給電部を取り付けます。

①車外用の型紙を貼り付けます。

図のように車内用型紙と車外用型紙の外枠を合わせて貼り付けます。



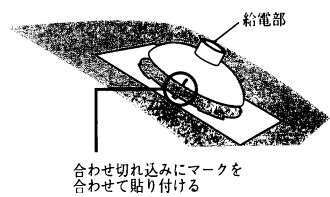
②エレメント、防水カバーをはずします
 キャップをはずし、L型レンチ(大)でアジャスト金具を緩めエレメントをはずします。次に防水カバーをはずします。



③ガラス面を暖めます。
 マatchingボックスの貼り付け時と同じ手順で行ってください。

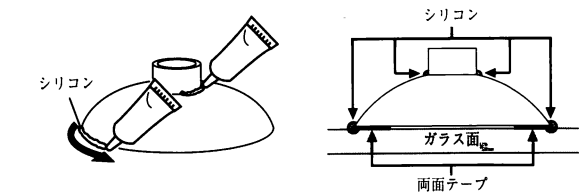
④給電部を貼り付けます

給電部裏面の剥離紙をはがします。取り付けるときは、車外用の型紙の合わせ切れ込みと、給電部のマークを合わせて貼り付け、外周を押すように加圧してください。取り付けが終わったら、車内外の型紙をはがしてください。



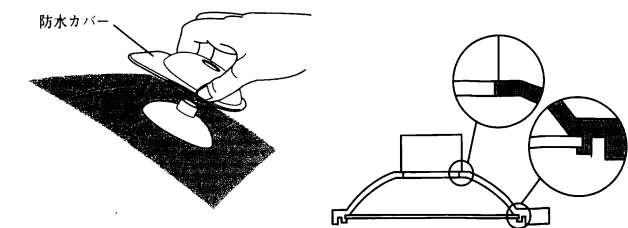
(3) 給電部に防水用のシリコンを充填します。

両面接着テープを保護するための、防水用シリコンを給電部の全周に充填します。軸のつけねのまわりにも少量のシリコンを充填します。図を参考に少しずつすきまに入れてください。



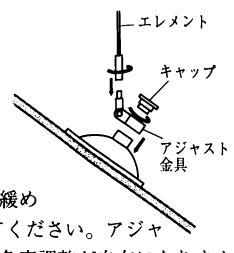
(4) 防水カバーを取り付けます

シリコンが完全に固まる前に作業します。防水カバー裏面の剥離紙をはがし、給電部を覆うようにガラス面に密着させます。給電部の中央部と外周は、防水カバーにかみ合うようになっています。防水カバーの中央部および外周を押さえるようにして確実にかみ合わせます。



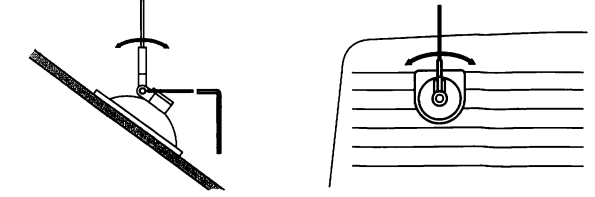
(5) アジャスト金具、キャップ、エレメントを取り付けます

アジャスト金具、キャップ、エレメントの順序で取り付けます。エレメントは、指で確実に締め付けてください。



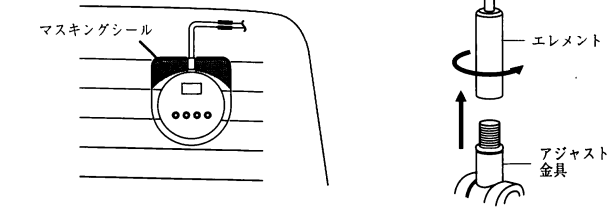
(6) エレメントを垂直に立てます。

アジャスト金具のネジをL型レンチ(大)で緩めて、エレメントを垂直にたてて締め付けてください。アジャスト金具のネジを緩めることで縦横両方の角度調整が自在になります。



(7) 車内にマスキングシールを貼ります。

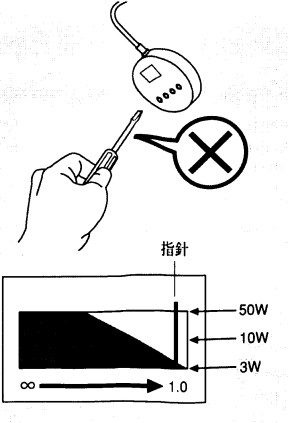
車内から防水カバー裏面が見えないようにマスキングシールを貼ります。
 ★エレメントは通常垂直に立てて使用しますが、車体の影響を避けるために少し傾けた方がよい場合があります。
 ★洗車時は、エレメントをはずしてください。ネジを緩めると簡単にエレメントをはずすことができます。



III 調整方法

アンテナの性能は、調整の具合によって決まりますので、確実に行ってください。

- 調整は、アンテナエレメントを取り付けた後に行ってください。
- 調整用のエアトリマーは、絶縁された付属の調整ドライバー以外では絶対に回さないでください。内部は高電圧になっており危険です。
- 調整は確実に行ってください。SWRモニターの振れが範囲内に入っていないまま長時間使用すると無線機の故障の原因となる場合があります。
- このアンテナの耐久力は50Wです。これ以上のパワーは絶対に入れないでください。

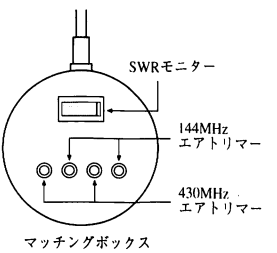


1. 調整前の準備

- ①アンテナエレメントは垂直に立てた状態(実際に使う状態)にしてください。
- ②アンテナエレメントの取り付けが終わったら、無線機を接続してください。デュプレクサーなどを使用する場合、それも接続してください。

※マatchingボックス各部分名称

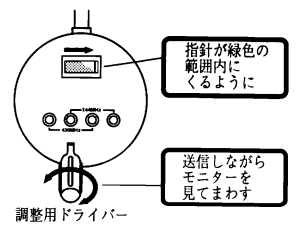
SWRモニター…反射波電力を示します。指針の振れが少ないほど良い状態となります。
 エアトリマー…これを回して各バンドの調整をします。
 付属の調整ドライバーを使って、それぞれのバンド(2ヶ所)を交互に回してください。



2. 調整

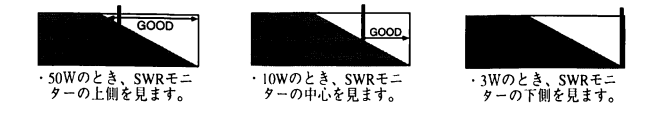
※最初は、できるだけ少ないパワー(1~5W)で行い、そのパワーで調整が完了した時点でパワーを上げて調整してください。

- ①144MHz帯から調整します。無線機を中心周波数付近にあわせてローパワーで送信します。指針の振れが図のように最小になるように144MHz調整用トリマー(2ヶ所)を交互に回します。調整用ドライバーは、トリマーのスリット(溝)に合わせてから回してください。合っていないとドライバーが破損することがあります。



- ②次に430MHz帯を調整します。144MHz帯と同じように無線機を中心周波数付近にあわせてローパワーで送信します。SWRモニターを見て振れが最小になるように430MHz調整用トリマー(2ヶ所)を交互に回します。
- ③①, ②を2~3回繰り返すと、各バンドのSWRは最小になります。SWRモニター内に表示されている緑色の範囲に入っていれば、VSWR1.5以下になっています。
- ④針の振れが最小になったら、次にパワーを上げて、①~③の作業を行ってください。

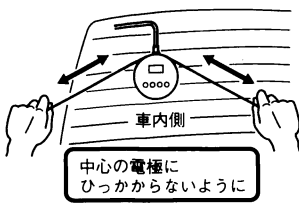
この時のSWRモニターの示す値は、パワーによって変化します。例えばパワーが50Wの時、指針が下図のようになっていれば、SWR1.5以下になっています。10W、3Wの場合も同じように下図を参考にしてください。



- ★シングルバンドで運用される場合、使用周波数のトリマー調整でSWRが下がらないときは他のバンドのトリマーもあわせて行ってください。
- ★内部に使用しているエアトリマーは、構造上何回転もします。
- ★1W以下で送信した場合、SWRモニターの指針が振れず調整できないことがあります。このときは、5W以上の無線機を使って調整してから運用してください。

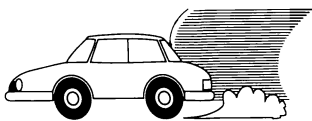
IV アンテナを取りはずしたい場合

アンテナを取りはずす必要のあるときは、ガラスとアンテナの間に細い針金をいれて左右にこすりながらはがします。車内側のマッチングボックスをはがすときは、針金を中心の電極部に引っかからないように注意してください。また車内側には、熱線やラジオ用のアンテナがありますので断線しないように注意してください。無理に力を加えてはがすと、ガラスが割れる恐れがありますのでご注意ください。もう一度取り付けるときは、必ず当社純正のリペアキットを使用してください。



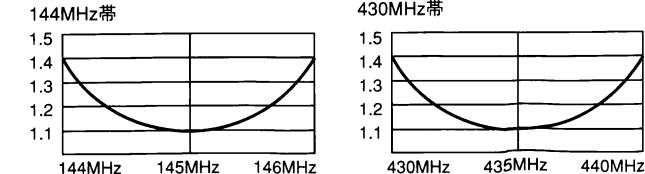
V 使用上の注意

- 1.TGシリーズに使用している両面接着テープは、通常の使用でははがれることはありません。ただしアンテナに強い衝撃がかかると取れやすくなりますのでご注意ください。極端な高速走行や、木や枝にアンテナがあたる場所での走行にはご注意ください。アンテナ取り付け後は、定期的に取り付け状態を確認してください。
- 2.ガラスに入っているラジオ用アンテナの近くにTGシリーズを取り付けた場合、車内のラジオに雑音が入ることがあります。
- 3.アンテナエレメントを固定するセットビスは、走行中に多少ゆるむ場合がありますので、特に新しいアンテナについては締め付けを十分に行ってください。L型レンチ (小) を使用します。
- 4.SWRモニターは、アンテナの反射波を直読しています。外部のSWR計で測定した場合には、同軸ケーブルが含まれるため、誤差が生じる場合があります。
- 5.ハイパワー (50W) 運用すると、多少マッチング部が温まる場合があります。
- 6.降雨時などは水滴の影響でSWRが悪くなる場合があります。

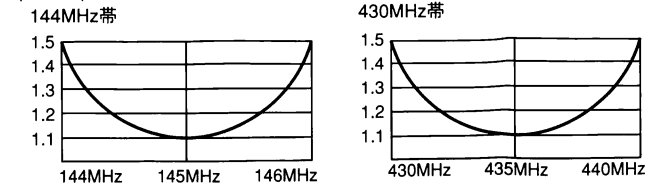


● VSWR表

(TG509)

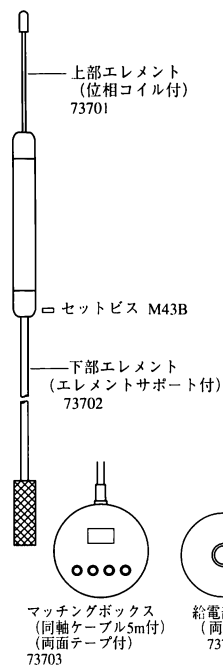


(TG506)

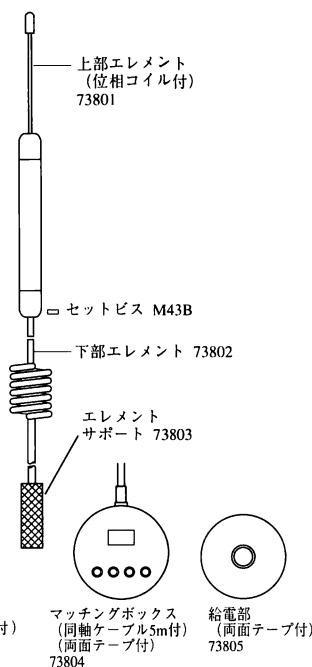


● パーツ名称 (番号)

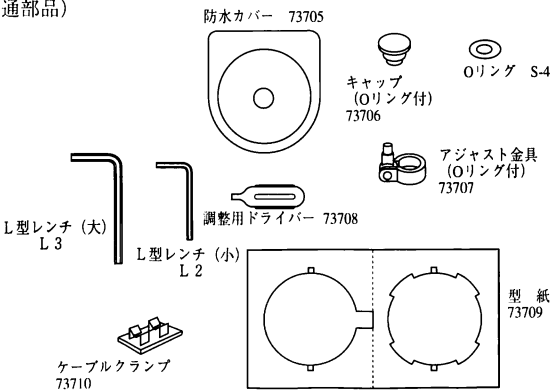
(TG509)



(TG506)



(共通部品)



● リペアキットについて

一度取り付けしたTGシリーズをはがして、もう一度取り付けようとするときは必ず当社純正品をお使いください。リペアキット「TGRK1」を別売しています。販売店にお申し付けください。リペアキット「TGRK1」には、マスキングシール/防水カバー用両面テープ/マッチングボックス用両面テープ/給電部用両面テープ/型紙/型紙用両面テープ/シリコン/クリーニングペーパー/取扱説明書がセットされています。

●仕様

(TG509)

周波数: 144/430MHz
利得: 2.15dBi(144MHz)、5.5dBi(430MHz)
耐入力: 50W (合計)
インピーダンス: 50Ω
VSWR: 1.5以下
全長: 0.87m
重量: アンテナ部120g、室内部330g(ケーブル含む)

(TG506)

周波数: 144/430MHz
利得: 2.15dBi(144MHz)、5.2dBi(430MHz)
耐入力: 50W (合計)
インピーダンス: 50Ω
VSWR: 1.5以下
全長: 0.67m
重量: アンテナ部120g、室内部330g(ケーブル含む)

■お買い上げいただきました製品は厳重な品質管理のもとに生産されていますが万一運搬中の事故などによる破損がありましたら、取扱店にお申し付けください。
■このアンテナの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
■このアンテナを正しく使用しなかった場合のトラブル、事故において当社では責任を負いかねます。取り付け、取扱には十分注意してご使用ください。

※この用紙は再生紙を使用しています。

第一電波工業株式会社/通信機器事業部
〒350 埼玉県川越市中居中通り445-1 TEL.0492(35)7171(代)
DAI-ICHI DENPA KOGYO CO., LTD. 24-13, Takashimadaira 9 chome, Itabashi-ku, Tokyo, 175
Printed in Japan

REVANT

2m/70cm Dual Band High Performance
Glass Mount Mobile Whip Antenna

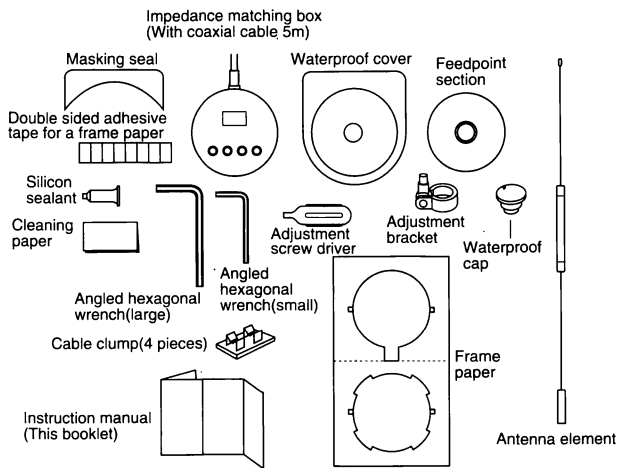
TG509/TG506

Patent pending

Instruction Manual

These antennas are operated by mounting on a windshield glass surface. Be sure to read this manual thoroughly to install the antennas properly. Keep this instructions carefully after reading.

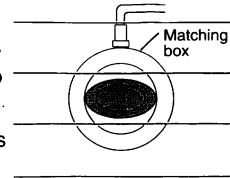
Assembling parts



(1) Find out installation location.

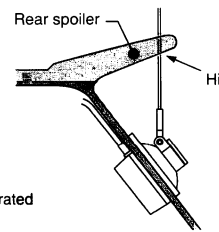
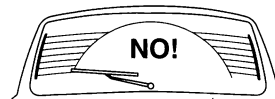
1) To find out installation location, while placing matching box from inside of a car, taking following things into account.

- Is it interfere your sight during driving?
- Is oval transmission element placed on windshield glass heater or embedded radio antenna? It, however, can be installed between the heater lines.
- Is it possible to wire coaxial cable or to practice antenna adjustment?
- Is it a location where glass surface is curved sharply?



2) Then, place the antenna from outside of the car. See if installation location being find out from inside is adequate by taking the following points into account.

- Is rear windshield glass wiper functioning properly if it is equipped in your car?
- Are there any obstacles such as rear spoiler for installing antenna element vertically?
- Is it a location where glass surface is curved sharply?



3) Coaxial cable wiring direction.

If there are heating lines, coaxial cable has to be wired for lower or upper direction. If no heating lines, coaxial cable can be wired for any direction.

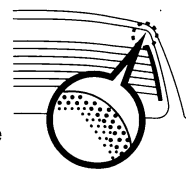
*In some cars, there is dotted paint area on a windshield glass surface. Since this area does not affect electrically, the antenna can be installed on it.

*Though a type of adhesive color film being attached on inside of the windshield does not affect electrically, to maintain adhesive strength, it is recommended to remove it.

*Do not install the antenna on front windshield glass or driver's side windshield glass.

(2) Clean windshield glass surface to be installed.

Clean dirt such as oil and wax on a windshield glass surface to be installed thoroughly with a cleaning paper included. If there are strong adhesive chemicals such as liquid wiper, being applied on the windshield glass, remove it around location to be installed the antenna with cleaning compound, then clean inside and outside with the paper.



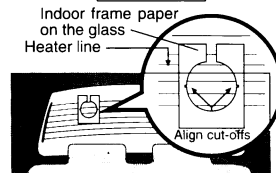
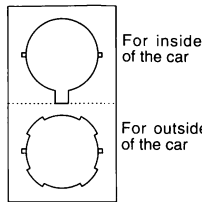
II. Installation

- Normally, double sided adhesive tape requires more than 24 hours to have enough adhesive strength. If a car has to be driven right after installation, remove whip element section.
- Adhesive strength of double sided adhesive tape decreases once it is attached and then removed. Do not use the tape once it is removed, since it may invite car accident. To install the antenna again, use our genuine repair kit.
- Since it is difficult to try again once the antenna is being installed, be sure to prepare for installation thoroughly in advance.

(1) Install impedance matching box on inside of windshield glass.

1) Attach indoor frame paper on the glass.

There are frame papers for inside and outside. They are used to locate installation location of the antenna. Tear apart along the separation line. To attach the papers, use double sided adhesive tape for the frame papers included. If there are heater lines around the installation location, place alignment line of the paper (cut offs) at the center between the lines.

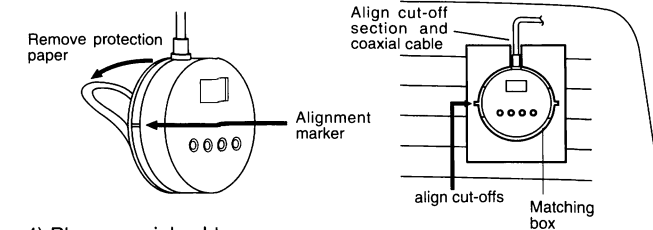


2) Heat windshield glass.

If the glass surface is too cold (less than 20°C/43°F), adhesive tape can not get enough adhesive strength. Then, heat the glass by rear windshield heater and car heater for about five minutes before installation. Do not heat a part of the glass with things like hair dryer, since it may cause to brake the glass.

3) Install impedance matching box

Remove protection paper on double sided adhesive tape for the matching box. Then, align side alignment markers of the box and cut-offs of the frame paper and press outer surface of the matching box to fix. Leave the frame paper for a while, since it will be used to locate outside section of the antenna.



4) Place coaxial cable.

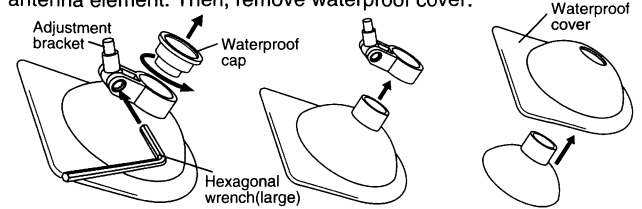
In wiring coaxial cable, be sure not to interfere your sight while driving. To wire the cable in the car, attach cable clumps included on appropriate part in the car and clip the cable on them.

(2) Install feedpoint section on outside of windshield glass.

1) Attach outdoor frame paper on the glass.

To attach outdoor frame paper, align four bigger cut-offs of the paper to the outer edge of inner frame paper.

2) Remove antenna element and waterproof cover. Remove a cap, and loosen adjustment bracket, and remove antenna element. Then, remove waterproof cover.

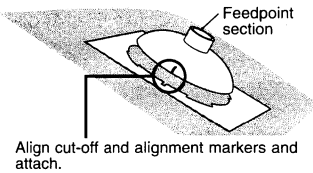


3) Heat windshield glass.

Practice the same procedure as in attaching matching box.

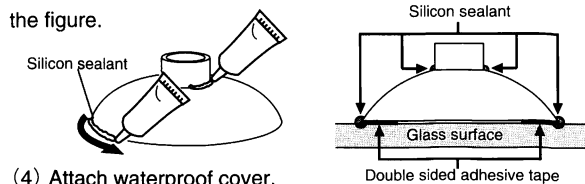
4) Install feedpoint section.

Remove protection paper on the back of the section. To install the section, align two cut-offs in outer frame paper and markers on the section to attach the section on the glass by pressing outer surface of the section onto the glass. After installing the section, remove inner and outer frame papers.



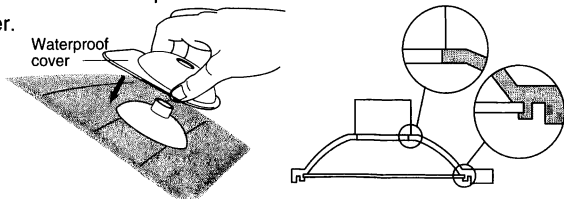
(3) Apply silicon sealant on outer part of feedpoint section.

To protect double sided adhesive tape, apply silicon sealant along the outer edge of the section and apply small amount of the sealant along the bottom of neck section. Apply the sealant into the gap as shown in the figure.



(4) Attach waterproof cover.

Attach the cover before silicon sealant get hardened. Remove protection paper on the back of the cover and place it on feedpoint section to cover it. Center part and outer skirt of feedpoint section are fit into the cover. Press center part and outer skirt of the cover to fit into each other.

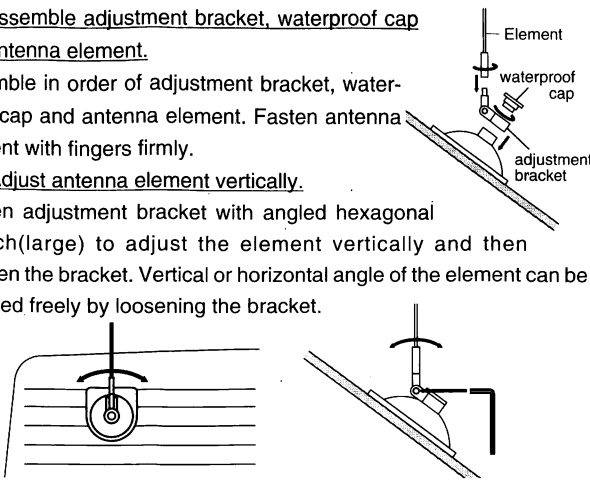


(5) Assemble adjustment bracket, waterproof cap and antenna element.

Assemble in order of adjustment bracket, waterproof cap and antenna element. Fasten antenna element with fingers firmly.

(6) Adjust antenna element vertically.

Loosen adjustment bracket with angled hexagonal wrench (large) to adjust the element vertically and then refasten the bracket. Vertical or horizontal angle of the element can be adjusted freely by loosening the bracket.

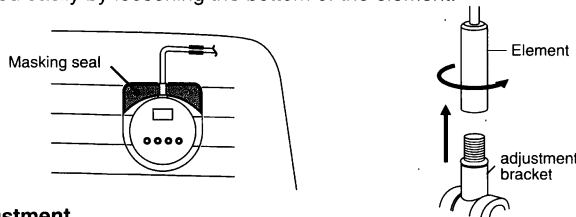


(7) Attach masking seal on inside of windshield glass.

Attach masking seal on inside of windshield glass to blind waterproof cover.

*Though antenna element normally has to be installed vertically, in some case, it is better to tilt the element a bit to avoid being effected by car body.

*Remove the element when you wash the car. The element can be removed easily by loosening the bottom of the element.



III Adjustment

Be sure to adjust the antenna perfectly, since performance of the antenna is determined by adjustment procedure.

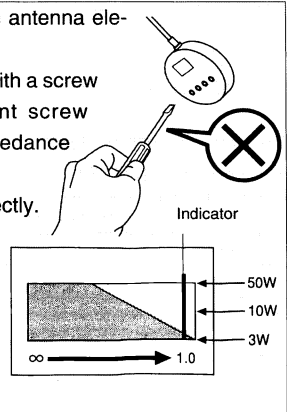
•Adjustment has to be performed with antenna element being installed.

•Do not adjust air trimmer capacitors with a screw driver except insulated adjustment screw driver included, since inside of impedance matching box runs high RF voltage.

•Be sure to adjust the antenna perfectly.

Using a transceiver with SWR monitor indicating out of adjustment range may cause to destroy a transceiver.

•Maximum input power of the antenna is 50W. Do not apply RF power more than 50W to the antenna.



(1) Preparation for adjustment.

1) Install antenna element in vertical position. (Position in practical operation.)

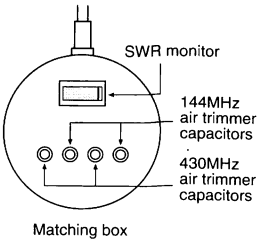
2) After the element is being installed, connect a transceiver to the antenna. If an antenna duplexer is used with the antenna, connect with it.

*Name of each part on impedance matching box.

SWR monitor ... Indicates reflected RF power. The fewer indicator swings the better the antenna is adjusted.

Air trimmer capacitor ... Used to adjust the antenna in each band.

*Adjust air trimmer capacitors (two in each band) in each band alternatively with a screw driver included.



(2) Adjustment.

Start with a least RF power (1 to 5W) as possible in the beginning. After finish adjusting at that power, raise the power to complete the adjustment.

1) Start to adjust from 2m band.

Tune in a transceiver around the center frequency of the band and start transmitting in low power. While looking at SWR meter, adjust two 2m band trimmer condensers alternatively to have least indicator

swing. Be sure to turn adjustment screw driver by correctly inserting its head into trimmer slot. Otherwise, driver head might be broken.

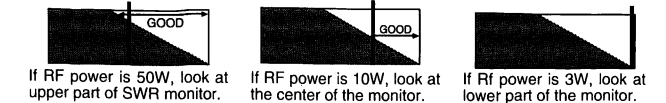
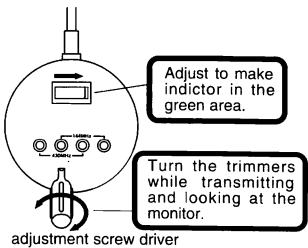
2) Then, Start adjusting on 70cm band. Just like 2m band, tune in a transceiver around the center frequency of the band and start transmitting in low power. While looking at SWR meter, adjust two 70cm band trimmer capacitors alternatively to have least indicator

swing. If the indicator in the meter is within green area, VSWR is less than 1.5:1.

3) Repeat 1) and 2) two to three times to have least SWR in each band. If the indicator in the meter is within green area, VSWR is less than 1.5:1.

4) After the indicator shows least swing, repeat 1) to 3) again in high power. In this case, SWR monitor indicates different value depending on RF power being applied. For example, RF power being applied is 50W and SWR monitor indicates as shown in bellow figures, SWR of the antenna is less than 1.5:1. For 10W and 3W RF power, refer to below figures respectively.

Adjust to make indicator in the green area. Turn the trimmers while transmitting and looking at the monitor.



*For single band operation, if VSWR of the antenna can not be lowered by adjusting trimmer capacitors on a band to be operated, try to adjust trimmer capacitors for the other band at the same time it helps to widen VSWR adjustment coverage.

*Air trimmer capacitors being used in impedance matching section are built to turn endlessly.

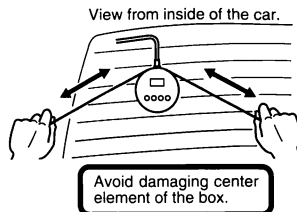
*If RF power being applied is less than 1W, Indicator in SWR monitor may not move and therefore it is impossible to adjust the antenna. In this case, raise the power to more than 5W and adjust the antenna to operate.

IV To remove the antenna.

If it is necessary to remove the antenna, insert a thin wire between windshield glass and feedpoint section and move it back and forth.

In removing impedance matching box on inside of the car, avoid damaging center element of the box by inserted wire.

At the same time, utmost care has to be taken to avoid breaking embedded glass heater line and radio antenna. Be careful that force to remove the antenna too strongly may cause to break windshield glass. To install the antenna again, be sure to use DIAMOND's genuine repair kit.



V Notes for operation.

1) Double sided adhesive tape being used in the TG series antennas can not be detached in normal operation. Once strong impact is applied to the antenna, however, it becomes less strong and detachable. Therefore, do not drive too fast and be careful when you drive in a forest or woody place. It is recommended to inspect the antenna periodically.

2) If the antenna is installed close to embedded radio antenna, noise may be heard in car radio upon transmission.



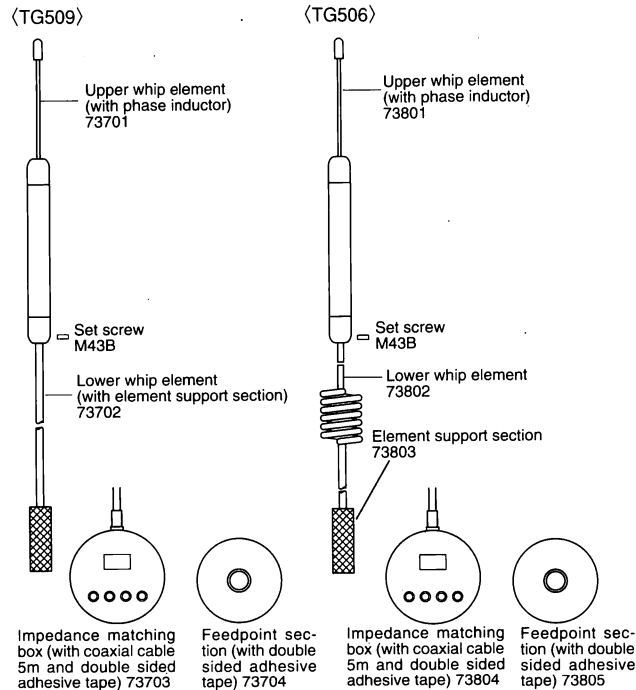
3) Since those set screws used to fix antenna element may be loosened during driving, it is recommended to refasten them firmly from time to time, especially the antenna is being installed recently. Use angled hexagonal wrench (small) to fasten the screws.

4) Built-in SWR monitor shows reflected wave from the antenna element. External SWR meter may show different value since it includes coaxial cable section.

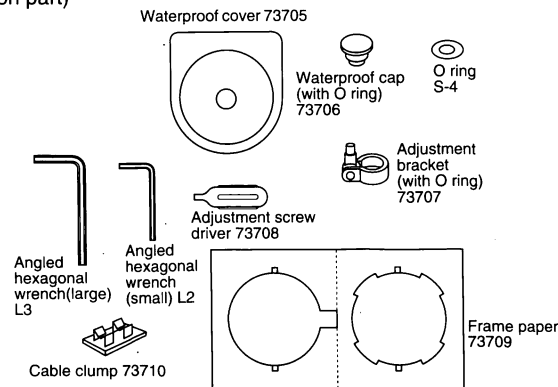
5) If high RF power (50W) is being applied to the antenna, impedance matching box becomes a bit warmer.

6) VSWR may be worsened by water under rainy weather.

Part name(number)



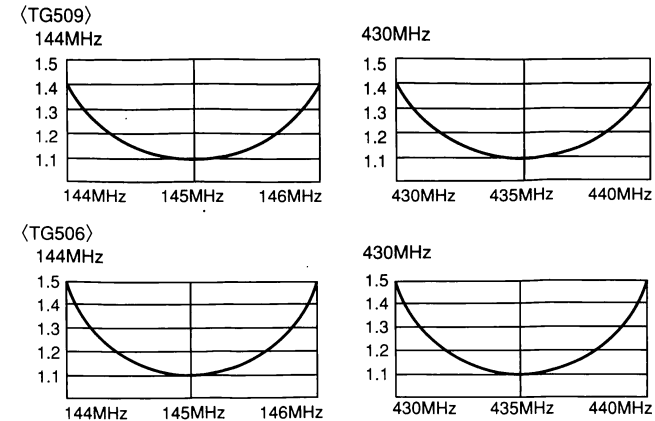
(Common part)



Repair kit

To install the TG series antenna after it is removed, use DIAMOND's genuine repair kit. The TGRK1 repair kit is sold separately. Ask your dealer for it. The TGRK1 repair kit contains masking seal, double sided adhesive tape for waterproof cover, double sided adhesive tape for impedance matching box, double adhesive tape for feedpoint section, frame paper, double sided adhesive tape for a frame paper, silicon sealant, cleaning paper and operating instruction.

VSWR chart



Specifications

〈TG509〉	
Frequency	: 144MHz band / 430MHz band
Gain	: 2.15dBi(144MHz) , 5.5dBi(430MHz)
Max. power rating	: 50W(sum of both bands)
Impedance	: 50ohms
VSWR	: Less than 1.5:1
Length	: 0.87m(34.3")
Weight	: 120g(0.26lbs.) antenna section , 330g (0.73lbs) Indoor section(including coaxial cable)
Connector	: UHF
Type	: 1/2 wave length(144MHz) , Two 5/8 wave length phased element(430MHz)
Coaxial cable	: 2.5DQ-S 5m
〈TG506〉	
Frequency	: 144MHz band / 430MHz band
Gain	: 2.15dBi(144MHz) , 5.2dBi(430MHz)
Max. power rating	: 50W(sum of both bands)
Impedance	: 50ohms
VSWR	: Less than 1.5:1
Length	: 0.67m(26.4")
Weight	: 120g(0.26lbs.) antenna section , 330g (0.73lbs) Indoor section(including coaxial cable)
Connector	: UHF
Type	: 1/2 wave length(144MHz) , Two 5/8 wave length phased element(430MHz)
Coaxial cable	: 2.5DQ-S 5m

※ This booklet is printed on recycled paper

DIAMOND ANTENNA CORPORATION

Miyata Building., 15-1,1-chome, Sugamo Toshima-ku, Tokyo 170 Japan,
Phone : +81-3-3947-1411 FAX : +81-3-3944-2981 Telex : 272-2420 DIATNA J

Printed in Japan